

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500118		
法人名	社会福祉法人もろ栄福祉会		
事業所名	グループホーム鶴の郷		
所在地	栃木県鹿沼市茂呂字極瀬243番地8		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様の自主性・自発性を最大限に尊重し、自立を支援していくことで生きがいを感じて頂き、『もうひとつの我が家』と思って頂けるようなグループホームに努めている ・ご愛用の家具等をお持ち頂き、慣れ親しんだ環境作り(和室・洋室を希望等により選択して頂く等) ・中庭に面し、日当たりの良いリビングスペースを中心に、各居室を配置している ・瓦作りの建物で木目等を生かした空間で昔を思い出して頂ける環境整備をしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の自主性と自発性を尊重し「もう一つの我が家」として愛用の家具を持ち込み、慣れ親しんだ「和室・洋室」等の選択が出来る。母体である法人と共に各委員会(看取り委員会・拘束委員会・生活向上委員会)等の勉強会を実施したり、意見・要望等を提案書において提案できる体制を作る等、職員の向上心を持って働く意欲作りに努め、より良いケアが出来るよう工夫している。具体的なケアにおいても24時間シートに準じた記録を行い、職員間での気づきにおいてケアに活かせる体制作りに努めているホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員掲示板等に掲示し、適宜管理者から理念に関する説明実施している。又、理念を基にした年間計画に運動し、月間目標をミーティングにて設定を行い、振り返り等を毎月実施している。	法人理念である「真の絆」は職員ロッカー前に掲示し、その理念を元にしてグループホームとしての年間目標と月間目標を設定し、日々のサービス提供場面で具体化している。また毎月、職員会議で話し合い振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度、運営推進委員会を開催し、地域の民生委員の方々に出席して頂いている。又、地域に買い物や外食等に行っている。夏祭りでは、地域の方々に参加をして頂いている。地域の小学校との勉強会や交流会も実施している。	ホーム独自の広報誌や祭りのお知らせを地域に配布している。買い物や外食等をしたリ、小学校の児童との交流や定期的な多彩なボランティア等が来訪するなど地域との相互交流にも取り組んでいる。	利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りや、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っていく上で、職員が研修をした認知症サポーター養成講座をホームにおいて地域の方に講座を開くなど、理解度の発信に繋いでいくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅主催のリフレッシュ事業等への参加し、地域の小学校の生徒への認知症についての講座実施している。又、毎月発行している『鶴の郷便り』に認知症への理解をして頂ける様に記載をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様や施設での取り組み状況報告等を行い、民生委員の方や家族様代表者よりご意見を頂いている。又、ご意見を少しでも反映できる様に努めている。	運営推進会議は2ヶ月毎に家族代表、民生委員、自治会長、市職員等の参加により開催している。会議ではホームの利用状況や行事等の報告の他、参加者との活発な意見交換や助言があり、日々のケアの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、市町村担当者と連絡を取り合い、サービス向上に努めている。又、運営推進委員会出席をして頂き、運営状況や取り組み内容等に関して、理解して頂いている。	市担当者には運営推進会議に参加してもらい、利用者の暮らしぶりや支援状況を把握してもらっている他、日ごろから電話等で情報交換や様々な相談にのってもらい、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主催の身体拘束ゼロ委員会に毎月出席し、拘束しない介護についての取り組みを継続実施している。声掛けに関しては、ケアの基本と考え、ミーティングや全体会議にて周知に努めている。	法人の身体拘束ゼロ委員会に出席し、身体拘束のない支援に取り組んでいる。具体的な言葉使いを3段階に分かりやすく色分けして、職員が目につく場所に表示するなど職員への周知に努めている。玄関の施錠は夜間のみ行い、日中は開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる法人主催の身体拘束ゼロ委員会に毎月出席し、勉強会に参加し、かつグループホーム会議等で勉強会を実施している。又、高齢者虐待に関するチェックリストを鶴の郷各部署で不定期にて実施し、早期発見が図れる様にしております。又、鶴の郷年間内部研修プログラムにも取り入れている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、成年後見人制度について学び、実際に成年後見制度を活用できる様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、分かりやすく説明する様に心掛けている。又、安心して過ごすためにも不明な点に関しては、いつでも問い合わせして頂ける様に声掛けし、納得して入所して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に気付いた点を話して頂ける様な機会を設けております。面会時には、職員より利用中の様子等をお伝えし、コミュニケーションを図っている。又、運営推進委員会に家族様代表者が出席して頂き、ご意見を頂いている。	年2回家族会を開き、利用者や家族の立場に立った要望を確認し、面会時にも対話に努め、出された意見は職員全員で協議しサービスの確保に努めている。なお利用者や家族の意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる事を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や面談等にて意見等を受ける機会を設けている。又、提案書にて書面での要望等も職員より提案できる体制をつくっている。	職員は利用者について気づいたことや、ケアの統一に関することなどを管理者やリーダーに気軽に提案することができ、情報交換ノートはリーダーがコメントを記入し、職員が働きやすい環境づくりや改善に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施し、面談等を行う事で個々の目標設定や現状把握を行っている。又、相談等をいつでも受けれる様にし、職員の勤務に関しての不安解消や向上心をもってもらえる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修会には、積極的に業務等に考慮し、参加できるように努めている。又、施設内研修として、ユニットミーティングやグループホーム会議にてテーマを決めて、取り組んでいる。その他、適宜ヒヤリング等にて対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可能な範囲で施設外研修参加や法人内でも委員会等での交流が図れる様に努めている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や思い等を確認しながら、ケアに取り組んでいる。又、本人の訴えを傾聴しながら、見出した課題等に関しては、家族様に適宜確認等を行いながら、より本人の思いに沿える様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前での在宅サービスや入院中での様子等を調査し、入所後に大差ないサービス提供が図れる様に努めている。又、面会時等に職員側から積極的に交流を図る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の調査を踏まえて、その都度、意向等を確認しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、尊厳をもち、その方らしい生活を過ごしていけるようにコミュニケーションを多くとる様に心掛け、思いを見出している。常に生活の場として、どう接していく事が良い事か?を念頭に入れて対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様を理解されている方であり、普段から職員は家族様とのコミュニケーションを多くもち、会話の中からも情報等を確認し、援助内容に活かせる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの築き上げた事や生活が継続され、少しでも馴染みの場所等に行ける様に本人や家族様とのコミュニケーションを大切にしている。	入居時等に家族から今までの生活暦や趣味嗜好の情報を収集し、美容室に出かけたり、同窓会や忘年会などにも家族の協力も得ながら本人の馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様との関係性を理解し、馴染みの関係としての交流が図れる様に職員仲介等にて関係性が継続できる様に努めている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も安心して、暮らせる様に、積極的に家族様等と話す機会を設け、相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様や家族様に確認しながら、意向や生活リズム等の把握に努めている。その方がどう生活していきたいのかを良く知り、少しでもその方に沿った生活やケアができる様に努めている。	職員担当制にしていることから、一人ひとり思いを把握しやすい。言葉で思いをあまり言わない利用者からは日々の行動や表情から汲み取り、家族や、アンケート、24時間シート、以前に利用していたデイサービス等からの情報も活用しながら本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前調査にて生活歴等を確認し、入所後は本人や家族様に適宜、コミュニケーションを通して、その方の今までの生活把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを通して、本人の出来る事や職員サポート内容統一を行っている。身体状況等の変化時には、適した援助内容に改訂し、常に本人に合ったサービス提供が図れる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な担当者会議や適宜、本人とのコミュニケーションからの確認し、家族様には現状等の確認を行いながら、安心して生活して頂ける様に援助内容の検討をしている。また、ユニットミーティングでは、入居者様の現状確認等をしております。	利用者及び家族のニーズを踏まえ、ユニット会議や24時間シートを活用して介護計画を作成している。見直しはアセスメントやモニタリングを行いながら6ヶ月ごとに行っている他、状態に応じた見直しも随時行い、家族等にも報告をして了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートに準じた記録を行い、ユニットミーティングを通して、ケアの変更や職員間での気づきがケアに活かせる様に努めている。毎月、居室担当者にて評価を記入し、より分かりやすくしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対応できる様に、日々柔軟に検討し、取り組んでいる。各業種間でも連携を図り、今必要なケアとは?を見出せる様に努めている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源の把握を行い、活用する事により、生活が充実できる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様との連携を図り、身体状況変化時等には小まめに連絡を取り合い、かかりつけ医での受診ができる様に努めている。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診時の付き添いは家族対応だが、状態変化時には看護師に相談し、対応することもある。歯科・眼科においても家族の協力を仰いでいる。受診結果や処方箋の情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時等には、看護師に相談し、対応方法等の検討をしている。家族様には、状況報告を行い、必要に応じての病院受診の依頼等をし、安心して暮らして頂ける様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院でのムンテラに参加させて頂き、常に病院の担当者と連絡を取り合い、できる限り早期退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に考慮し、早い段階で終末期のあり方について話し合う機会を設けられる様にしている。また、同法人内での看取り委員会に毎月参加し、終末期ケアについての話し合い、かつ勉強会にて取り組んでいる。	法人のマニュアルをもとに、重度化・終末期の支援については、本人や家族の意向を踏まえ、事業所として対応し得る具体的な話し合いを重ねている。法人内の看取り委員会に参加して、勉強や話し合いの機会を得ている。マニュアルも法人と一緒に作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、施設内外のAEDの使い方やその他の研修等で知識習得や実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防立ち合いの避難訓練・通報訓練・消火訓練を行い、また、毎月災害時に備えた訓練を行っている。また、いざと言う時の為に、地域の民生委員への協力もお願いしている。災害時のための非常食等の準備もしている。	消防署立会いの下で避難訓練・通報訓練・消火訓練等を定期的に行ったり、毎月災害時に対する訓練を行っている。また地域の民生委員等における協力もお願いしたり、職員連絡網もあり備蓄も確保している。	昼夜を問わず避難誘導ができる様、避難手順の把握に努めたり、職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の人の協力が実際に得られるように、日ごろから話し合いを行い一緒に訓練を行うなど、実践的な取り組みや地域代表者も職員連絡網に組み込む等に期待したい。

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な場面でもプライバシーに対する配慮やご本人様に対する声掛け等にも配慮する様に心掛けています。又、施設内研修にて定期的に接遇についての目標設定や振り返りを行う事で常に職員間での意識付けが図れる様に努めています。	利用者への言葉使いや家族との電話対応などの接遇面・プライバシー等の勉強会を行い、毎月の目標を掲げ、翌月には目標の振り返りを行っている。個人情報記載された書類等は事務室内で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、本人が選択できる声掛けを行い、少しでも入居者様自身が決められる様な声掛けを行える様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間シートを作成し、一人ひとりがその方らしい生活を本人ペースで送って頂ける様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、化粧をされたりとの方ができる身だしなみやおしゃれに合わせた声掛けに取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや調理等の本人ができる事は、職員声掛けと一緒に手伝って頂いている。食器洗い等も行って頂き、食事全体を通して、何らかの役割がもてる様にも努めております。定期的に嗜好調査も行っている。	食材の手配は外注業者に委託しホームの管理栄養士が利用者の摂取量や嗜好を把握し代替食等の工夫をしながら提供している。利用者は職員と共に準備や後片付けも一緒に行っている。季節に応じたおやつ作りを月1回行い「食」を通した生活の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士配置にて、一人ひとりの嗜好や摂取量を把握し、その方に合わせた提供方法を検討している。又、嗜好調査を本人ヒヤリングにて確認し、家族様にはアンケートにて実施して頂いている。楽しみのひとつでもある食事ですので、できる限り嗜好に合わせて頂ける様に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要に応じての声掛けや一部介助にて実施している。義歯が合わない場合等には、家族様に歯科受診の検討をして頂いている。		

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができる様に努めている。又、24時間シート転記にて、日中帯と夜間帯での援助内容を把握し、そして明確化し、適したパット使用にて対応している。	トイレでの排泄を可能にするため利用者の生活リズムに沿った支援と使いやすいトイレの整備に努めている。また24時間シートを使用検討し、個別の排泄支援に努めている。トイレ誘導は自尊心に配慮した言葉かけを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や活動量確保を図る事を第一に考えて対応している。できる限り、下剤等にたよらずに対応できるように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯や入浴方法等の好みを把握し、可能な範囲で意向に沿った対応が出来る様に努めている。	午前・午後・夜と利用者の希望の時間帯で入浴できる。あかすりやボディークリームを持ち込めたり、一人ひとりの意向を尊重し支援している。ゆず湯や菖蒲湯など季節感を取り入れくつろげる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースに応じた対応に心掛け、室温や寝具類調整によって、安眠できる様に対応している。又、日中帯の活動量確保が図れる様にも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的や副作用等を確認し、内服方法や服薬時の注意点をシート化し、服薬時の対応方法が統一できるように努めている。又、薬の使用目的や副作用について確認できるように個人ファイルに記載事項書類を添付している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活パターンを把握できる様に些細な事でも、24時間シートに転記する様に心掛けております。又、できる事を継続していただける事への楽しみや外出での気分転換を図れる様に努めております。そして、自分で出来る役割の大切さを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂いたり、職員との交流の中で話題になった場所等に可能な範囲で外出・外食が出来る様に努めている。また、本人の希望にそっては、家族様に協力しながら支援している。	短時間でも戸外に出る機会を作り、ストレス発散と五感刺激を得るよう努めながら、利用者の希望に沿った外出の支援をしている。季節に沿った初詣・桜祭り・秋祭り、定期的に回転寿司等の外食に出かけている。支払いや購入品は職員付き添いのもとでお金の使える支援もしている。	

グループホーム鶴の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や外食時に支払い等は、職員付き添いのもと行っているが、本人の意向にて食事のメニューや購入品を決めて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、職員仲介にて家族様に電話ができる様に支援し、年賀状などで外部との交流が途切れない様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活しやすい空間作りに努めております。又、季節に合わせた室温管理や掃除等での環境整備にも努めている。季節の花等を飾る等、少しでも生活しやすい様に努めている。	居心地の良さや心身の活力を引き出すための木のぬくもりが漂い、昔懐かしい置物が置かれている。フロアの片隅にはテーブルと椅子が配置され家族とのコミュニケーションの場になっている。また2ユニット間が開放されて利用者同士の交流がある。家族がお花を飾ってくれるなど季節感が漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様間の関係性や交流面等に配慮し、座席等の配置検討しております。又、状況に応じては適宜再検討をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様と相談しながら、自宅で使用していた馴染みの家具や使い慣れた物等を持参して頂き、以前の生活環境に近い状態で暮らして頂ける様に心掛けています。	ベッドやカーテンは当ホームで用意し毛布や肌掛け等は使い慣れたものを持参している。入り口には名札を掲示し利用者が分かるようにしている。居室は和室と洋室の選択が出来、家族やお孫さんの写真や植木鉢のお花、創作カレンダー、折鶴などが飾ってあり居心地の良さを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の出来る事を把握し、できる事を少しでも続けられる様な環境整備や空間作りに心掛けております。又、適宜ヒヤリハット報告書にて改善箇所等を見出して、できるかぎり自立した生活が送れるように工夫している。		